

はじめに

『国際化と看護』は2018（平成30）年11月15日に初版が発刊されました。発刊の1年後から、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延が発生し、改めて「国際化と看護」について考えることが必要だと考えました。そこでこの度、7年ぶりに新しい内容の「国際化と看護」を企画しました。今回は新型コロナウイルス感染症が蔓延したときの経験やその後の世界情勢の変化を反映するように、内容を一新しました。また、新しい「国際化と看護」の教科書としての位置付けをより鮮明にするため、ナーシング・グラフィカ『国際化と看護』として企画しました。

「国際化と看護」という言葉は、看護師国家試験出題基準の「看護の統合と実践」の大項目3の中に出てくる言葉です。この項目のキーワードは「世界共通の健康目標」「人間の安全保障」「プライマリ・ヘルス・ケア」「看護の対象となる人々（在留外国人、在外日本人、帰国日本人、国際協力活動を必要とする人々）の健康課題」「多様な文化を考慮した看護」です。これらのキーワードを解説すべく、初版でお世話になった専門家の先生方に加えて、新たに素晴らしい専門家の先生方にご執筆いただきました。

本書の企画に当たっては、各章の内容に統一感をもたせるために、初版の全3章から全8章へと、章の数を増やしました。1章では「グローバルに看護を考えるということ」について読者の皆さんと共有したいと思います。2章では「地球規模の健康課題と保健医療を支える機関」について解説します。看護職としての経験を積んで、将来海外で活躍したいと希望する学生や看護職の方にも興味深い内容です。3章「海外における看護」と4章「グローバル化する日本の医療の現場」では、それぞれの活動分野の第一線で活躍している先生方が執筆しています。5章「病院における外国人への看護」と6章「地域における在留外国人への支援」では、4章の内容を受けて執筆者の専門性に応じた、より詳細な日本国内での多様な文化背景をもつ人々への看護や支援について解説しています。特に5章では、具体的な看護について事例を紹介しており、臨床実践のヒントを得ることができます。7章「国内外における支援の課題」では在留外国人と在外日本人の支援の課題を解説し、8章「渡航における感染対策と健康支援」では国際的に感染症が急拡大する現状を受けて、感染症の検疫を含む支援について解説します。さらに、すべての章にわたって、新型コロナウイルス感染症に対応した経験を含めて解説しています。

このように、本書は盛りだくさんの内容であり、国家試験対策だけでなく、自分が将来、どのような環境で働きたいかを定めるきっかけを提供することを目指しています。また、さまざまな経験を積んだ看護職の方々にも読んでいただきたい内容になっています。執筆者の熱い想いを伝えることができ、一人でも多くの看護学生や看護職の方々が、国際看護に興味をもっていただければ、本書を企画・編集したものの一人として、非常にうれしく思います。

本書が日本の看護や医療のグローバル化の発展に役に立つことを期待しています。

編者を代表して 大橋一友